

## インターバンクの声（2015年4月30日）

今週一番の注目だった第1・四半期の米国内総生産（GDP）速報値の発表と米連邦公開市場委員会（FOMC）を終え、アジア市場に戻ってきた外国為替市場も徐々にそれらの内容を消化しつつある。ドル/円相場だけを見れば日本の祝日前の28日の夕方とほぼ同水準119円台前半での取引となっており、やや拍子抜けの感は拭えない。ただ、今朝アジア市場ではニューヨークの高値から少し下げているものの、この間ユーロ/ドルは約200ポイントもユーロが上昇、豪ドル/ドルも同じく200ポイント近い豪ドルの上昇を見せており、このドルの軟調地合いに今後ドル/円も同調するのか注目だ。米GDPの結果は市場の多くが予想した通り米経済成長の停滞を示す内容となったが、今後の回復に自信があるのか、不思議と「一過性の弱さ」との認識になっている。さらにFOMCの声明も冬季の減速を反映したものとしており、これらの見方を証明するためにも、益々今後の経済指標の結果が鍵となる相場展開になって来そうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。